

## 第7回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

### 【日時】

令和5年（2023年）10月5日（木） 15:30～17:00

### 【会場】

箕面市役所別館6階会議室A

### 【議事概要】

#### ●「小中一貫教育の推進に係る具体的取り組み」に関する議論

基本方針③の家庭・地域の観点に基づき作成した具体的取組（案）について、小学校・中学校・施設一体型小中一貫校のPTA役員にもご参加いただき議論を行った。

#### ①学校協議会の段階的な中学校区化について

（意見）

- ・ 学校協議会を中学校区で実施するとなれば、その学校固有の問題について議論したり共通理解したりする余裕はあまりないので、学校協議会を年に3回開催するならばその内2回を中学校区で、残りの1回を学校単独で開くという選択肢も考えられる。また、中学校区での開催を基本とし、必要な場合はその学校独自で、追加の学校協議会を個別開催するという方法もあると思う。
- ・ 小中一貫校での学校協議会は、1年生の親御さんが参加しても、この学校で9年間をどのように過ごしていくかがわかりやすい会になっていると思う。施設分離型の小・中学校では学校協議会を別々に行っていると初めて知ったが、小中一貫校の保護者として学校協議会に関わってきた経験から言えば、学校協議会は小学校・中学校で一緒にやる方が良いと感じている。
- ・ 小学校1年生と中学校1年生の抱える問題は違うと思っているので、学校単位で実施するのが良いと思った。
- ・ 小学校の保護者も中学校の様子を聞ける場はあった方がよいと思うが、学校協議会の回数が増えるとなれば、PTA役員の負担にならないか心配。
- ・ 皆さんのお話を聞き、どのような視点で中学校区の学校協議会が必要なのかの整理が必要だと感じた。見通しを持った子育て・教育ということはすごい大切だと思う。学校からの情報提供だけでなく、保護者が疑問に思うことも学校協議会の場を出し合う、あるいは学校が保護者から教えてもらうなどのやりとりがあると非常にいい。学校協議会を中学校区でやる重要性は、その辺りにあるのかなと思っている。
- ・ 日本の教育制度が、小学校6年間・中学校3年間という枠組みがある中でも、小中一貫教育を押し進めた方がよい理由は、中学校1年生になった際の不適応を改善したいということや、学力の向上が挙げられる。学力を高めようとした際に、

各段階の指導方針が異なると、小学生・中学生お互いにデメリットが生まれることがある。ここに、各学校の教育だけでなく、ご家庭を巻き込んで中学校区の学校協議会をするということのアピールポイントがあるのではないだろうか。

- ・ 義務教育9年間の目標を一致させて学校運営を進めていきたいという意味でいうと、小学校の目標と中学校の目標が全然違うということでは困るので、その目標を一致させた上で進めていく必要がある。その共通理解を図っていくという意味でも、学校協議会を中学校区ですることは大きなメリットがあると思い、事務局から提案させていただいたものである。しかし、個別の学校の話は、学校単体の協議会で議論したいという考えもあり、その部分をどのように両立させていくのか、ここは段階的な移行の中で検討を深める必要がある。少なくとも中学校区の教育目標、学校教育活動に関することを、保護者地域の皆さんと共通理解を図りたいというのが、我々の提案をしている理由である。
- ・ 先ほど意見が出たように、小学校1年生と中学校1年生の問題点は違うが、1年生から9年生までの流れを全て見るからこそ、立ち返って考えることができる良さもある。ただし、そこに幼稚園・保育所まで含めるとなれば幅が広くなりすぎると思う。小学校と中学校の合同協議会の幅がちょうど良いと感じている。

## ②中学校授業参観へ小学校保護者（希望者）が参加することについて

（意見）

- ・ 授業参観の対象者を拡大することで、新たなトラブルが発生するリスクがある。やることはすごく良いことなので上手く進んでほしいが、そのような不安を実際に取り組む先生方がどう思われるか、少し疑問に思うところはある。
- ・ 小学校の保護者で、保護者同士が関わることがあまりない。子どもが小学生の段階から中学校の情報が入ってきたり、中学校を見に行くことができたりということについては、ニーズがあると思う。また、中学校から私学を検討している子どもの保護者にとっても、4年生くらいの早い段階から中学校のことを知っておくことで進路を考えやすくなると思う。
- ・ 学校の敷地が違っていると、参加する敷居が高くなる場所はあると思う。小学生の保護者に案内してもどこまで来ていただけるだろうか。また、教室の構造や狭さなどの関係で教室自体に入りづらい雰囲気もあるため余計にハードルも高くなっているようにも思う。どのようにしてハードルを下げていくのか、ハード面や人員確保の点を含めて、現場の先生の声も聞いていただければと思った。
- ・ 難しいハードルはたくさんあると思うが、保護者はいろいろな情報を知りたいということなので、小学校の保護者のことも意識した情報発信をしていくことが大事だと思う。
- ・ 小学生の保護者に案内しても来ていただけないかもしれないという不安については、どのように案内していくかという点を考える必要があり、そのためにも中

学校区の学校協議会があったほうがいいのではないかと思います。各学校がいつどのようなイベントをするのか、みんな行きたいとか、来てもらいたいと思ってるけど、その気持ちが上手につながらないのは組織化が整ってないからだという解釈が成り立つような気がした。小・中学校のそれぞれの活動がタイムスケジュール化された上で、お互い認識できるような場があった方が良く思う。また、その部分を新たに作ることで新たな負担が生じるので、コーディネーターを配置する学校への加配という案は、私の立場からすれば、正当な持っていき方だと思う。ご心配されていた教職員の負担だが、確かに偏った見方をなさるリスクもあるが、そういうことから守るために管理職がいたり、あるいはその対処役として中学校区の学校協議会が機能していけばいいのではないかと思いますので、極端な意見に対しては、それがきちんと回収できるような仕組みを持った上で、希望すれば小学校の保護者が中学校の授業を見て意見を述べられるような機会は、あったほうがいいかと思った。

### **③その他の項目（中学校区内のPTAが連携して、催しを開催することについて）**

- ・ 彩都の丘学園では、青少年を守る会が主体となり校区内スタンプラリーを行っている。そこにはPTAも参加し、地域団体も協力してもらっている。小中一貫校は、子どもが小学校を卒業しても引き続き協力いただける風土があり、マンパワーが比較的確保しやすいというメリットがあると思う。
- ・ 今PTAは、負担をいかに少なくしてやっていくのかというところが課題となっている。PTA実行委員をやめた学校もある。なるべく今あるものをより良くするという方向性で考える方が良く感じる。
- ・ 働くお母さんが増えていて、催しについて話し合う時間が確保できない。当然PTAのなり手もないというのが現状で、新しい催しは難しい。
- ・ 前任校では、夏休みに地域の子ども食堂に生徒が手伝いに行くことをやっていた。そのような取り組みでも小・中のつながりができてくるのではないかと思います。現任校では、子どもたちが主体で動くイベントがあり、そこに地域の方々を呼ぶ。そこでも地域の方とつながり、交流が出来ている。

以上